



安全データシート

この安全データシートは以下の要件に準拠している：
JIS Z 7253:2012、日本

発行日 06-4-2020

改訂日 06-4-2020

改定番号 1

1: 化学品及び会社情報

製品名 World Health Organization Hand Sanitizer Formula (Ethanol-based)

登録番号 情報なし

その他の情報 手指消毒剤は、世界保健機関（WHO）が推奨する処方のみを使用して製造されており、成分やパーセンテージに差異はありません

製造業者は、他の有効成分または不活性成分を追加しません。異なる成分や追加の成分は、製品の品質と効果に影響を与える可能性があります

本製品はパーソナルケア商品です。このSDSには、産業用作業環境における製品の安全な取り扱いと適切な使用、および大規模流出により発生する可能性のある非意図的な暴露に関する有用な情報が含まれています。消費者：製造元の指示に従って使用した場合の、本製品に関する適切な消費者固有の情報については、添付文書または製品ラベルを参照してください

安全データシートの供給者の詳細 製造者

Cobeal, S.A. de C.V.
Calle Río Mayo 1400, piso 3
Cuernavaca, Morelos 62290 -MEXICO

緊急連絡電話番号 52 (55) 777 420 2408 Monday-Friday / 9am-6pm

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 手の消毒液

推奨されない用途 情報なし

2: 危険有害性の要約

GHS 分類

引火性液体	区分 2
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性	区分 2B
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3
区分 3 標的臓器影響： 呼吸器刺激性、 麻酔作用。	
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2
区分 2 中枢神経系。	

ラベル要素



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- ・ 眼刺激
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 眠気又はめまいのおそれ
- ・ 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ
- ・ 引火性の高い液体及び蒸気
長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害のおそれ: 中枢神経系。

注意書き

予防

- ・ 取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと
- ・ 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること
- ・ 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーを吸入しないこと
- ・ 熱 / 火花 / 裸火 / 高温のもののような着火源から遠ざけること。 - 禁煙
- ・ 容器を密閉しておくこと
- ・ 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること
- ・ 容器を接地すること / アースをとること
- ・ 火花を発生させない工具を使用すること
- ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること
- ・ 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を使用すること
- ・ 涼しいところに置くこと

対応

- ・ 気分が悪いときは、医師の診断 / 手当を受けること
- ・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- ・ 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当を受けること
- ・ 皮膚 (又は髪) に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水 / シャワーで洗うこと
- ・ 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
- ・ 気分が悪いときは、医師の診断 / 手当を受けること
- ・ 火災の場合: 消火するために粉末消火剤、CO₂ (二酸化炭素)、水噴霧又は耐アルコール泡消火剤を使用すること

保管

- ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと
- ・ 施錠して保管すること

廃棄

- ・ 内容物 / 容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること

他の危険有害性

- ・ 吸入すると有害のおそれ
- ・ 軽度の皮膚刺激

3: 組成及び成分情報

混合物

化学名	%	化審法番号	安衛法番号	CAS番号
エタノール 64-17-5	80	(2)-202	(2)-202	64-17-5
水 7732-18-5	18.425	情報なし	情報なし	7732-18-5
グリセリン 56-81-5	1.45	(2)-242	(2)-242	56-81-5
過酸化水素 7722-84-1	0.125	(1)-419	(1)-419	7722-84-1

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)

該当しない。

毒物及び劇物取締法

該当しない

4: 応急措置

一般的なアドバイス

治療を行う医師にこの安全性データシートを示すこと。

吸入

空気の新鮮な場所に移すこと。ばく露又はばく露の懸念のある場合: 医師の診断/手当てを受けること。

皮膚接触

通常の使用条件下ではない。皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

眼接触

直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。洗っている間は眼を大きく広げてそのままにすること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。刺激が生じて長引くときは、医師の手当てをうけること。

経口

無理に吐かせないこと。水で口をすすぎ、その後多量の水を飲むこと。意識のない者には、何も口から与えてはならない。医師に連絡すること。

症状

眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。長期にわたり接触すると発赤及び刺激を引き起こすおそれがある。高濃度の蒸気を吸入すると、頭痛、めまい、疲労、吐き気及び嘔吐のような症状を引き起こすおそれがある。

応急措置をする者の保護

すべての着火源を排除すること。医療者が物質の関与を認識していることを確認し、彼ら自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること。指定された個人保護具を使用すること。詳細は8項を参考する。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。

医師に対する特別な注意事項

症状に応じて治療すること。

5: 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火剤。二酸化炭素 (CO ₂)。水噴霧。耐アルコール泡消火剤。
使ってはならない消火剤	提供された情報に基づき知見なし。
特有の危険有害性	発火のリスク。製品及び空容器を熱源及び着火源から遠ざけること。火災の場合には、水噴霧でタンクを冷却すること。燃焼残留物や汚染された消火水は現地の規制に従って廃棄しなければならない。
爆発性	情報なし。
特有の消火方法	提供された情報に基づき知見なし。
消火を行う者のための特別な保護具	消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。個人用保護具を使用すること。

6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	人員を安全な区域に退避させること。指定された個人保護具を使用すること。詳細は8項を参考する。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。十分換気されているか確認すること。人員を漏出 / 漏えい (洩) の風上に遠ざけること。全ての着火源を排除すること (近接区域は喫煙とし、裸火、火花又は火炎を排除すること)。フラッシュバックに注意すること。静電気に対する予防措置を講ずること。製品を取り扱うときは使用する全ての器材を接地すること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。
緊急対応を行う者のための保護具	8項で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	7項及び8項に記載されている保護措置を参照すること。安全に対処できるならば、それ以上の漏えい (洩) 又は漏出を防ぐこと。製品が排水路に入らないようにすること。
封じ込め方法	リスクを伴わずに可能ならば漏えい (洩) を止めること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。蒸気抑制泡を使用して蒸気を減らすことができる。流去水を回収するために液体流出物のかなり前方に堤防を築くこと。排水路、下水溝、排水溝、水路に入らないようにすること。後で廃棄するために土、砂又はその他の不燃性材料に吸収させて容器に移すこと。
浄化方法	静電気に対する予防措置を講ずること。せき止めること。不活性吸収材料で吸収すること。回収して適切に表示された容器に移すこと。
二次危険有害性の予防	汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。
その他の情報	その区域を換気すること。7項及び8項に記載されている保護措置を参照すること。

7: 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	個人用保護具を使用すること。蒸気又はミストを吸い込まないようにすること。熱 / 火花
----------	--

/ 裸火 / 高温のもののような着火源から遠ざけること。 - 禁煙。 静電気の放電、火災又は爆発を防止するために、この物質を移動するときは接地及びアース接続を使用すること。 局所排気換気装置を併用すること。 火花を発生させない工具及び防爆型の機器を使用すること。 スプリンクラーが装備された区域に保管すること。 包装容器のラベルに記載の指示に従って使用すること。 産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。

一般的な衛生注意事項

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 機器、作業区域及び衣類を定期的にクリーニングすることが推奨される。 休憩前および製品の取扱い直後に手を洗うこと。 皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。 適切な手袋および眼/顔面保護具を着用する。

保管

安全な保管条件

容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。 熱、火花、炎及び他の着火源（例えば、点火バーナー、電気モーター及び静電気）から遠ざけること。 適切な表示のある容器に保管すること。 可燃性物質の近くには保管しないこと。 スプリンクラーが装備された区域に保管すること。 個別の国内規制に従って保管すること。 現地の規則に従って保管すること。

8: ばく露防止及び保護措置

技術的対策

シャワー
洗眼場
換気システム。

許容濃度

化学名	日本産業衛生学会	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度	ACGIH TLV
エタノール 64-17-5	-	-	STEL: 1000 ppm
過酸化水素 7722-84-1	-	-	TWA: 1 ppm

生物学的職業性ばく露限界値 該当しない

環境ばく露防止

情報なし。

個人用保護具

呼吸用保護具

通常の使用条件下では保護具は必要ない。ばく露限度を超えるか刺激が生じる場合には、換気および排気が必要になる。

眼 / 顔の保護具

密封性の高い安全ゴーグル。

手の保護具

適切な手袋を着用する。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用する。 長袖の衣類。 耐薬品性エプロン。 帯電防止長靴。

9: 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観

物理的状态	液体
色	無色
臭い	アルコール
臭いのしきい値	情報なし

特性

	値	備考・方法
pH	データなし	知見なし
融点 / 凝固点	データなし	知見なし
沸点 / 沸点範囲	78.3 °C / 172.9 °F	
引火点	17.5 °C / 63.5 °F	
蒸発速度	データなし	知見なし
燃焼性 (固体、気体)	データなし	知見なし
空気中での可燃限界		知見なし
可燃性又は爆発性の上限	データなし	
燃焼又は爆発の下限	データなし	
蒸気圧	データなし	知見なし
蒸気密度	データなし	知見なし
相対密度	データなし	知見なし
水への溶解度	データなし	知見なし
溶解度	データなし	知見なし
分配係数	データなし	知見なし
自然発火温度	データなし	知見なし
分解温度	データなし	知見なし
動粘性率	データなし	知見なし
動的粘度	データなし	知見なし

その他の情報

爆発性	情報なし。
酸化特性	情報なし。

10: 安定性及び反応性

安定性及び反応性	通常の使用条件下ではない。
安定性	通常の条件下で安定。
危険有害性反応危険性	通常のプロセスではない。
避けるべき条件	熱、炎及び火花。
混触危険物質	提供された情報に基づき知見なし。
危険有害な分解生成物	提供された情報に基づき知見なし。
爆発データ	
静電放電に対する感度	該当する。
機械的衝撃に対する感度	なし。

11: 有害性情報

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報

成分情報

化学名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
エタノール	= 7060 mg/kg (Rat)	-	= 124.7 mg/L (Rat) 4 h
水	> 90 mL/kg (Rat)	-	-
グリセリン	= 12600 mg/kg (Rat)	> 10 g/kg (Rabbit)	> 570 mg/m ³ (Rat) 1 h
過酸化水素	= 1518 mg/kg (Rat)	= 9200 mg/kg (Rabbit)	= 2000 mg/m ³ (Rat) 4 h

症状 眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。長期にわたり接触すると発赤及び刺激を引き起こすおそれがある。高濃度の蒸気を吸入すると、頭痛、めまい、疲労、吐き気及び嘔吐のような症状を引き起こすおそれがある。

製品情報

経口

この化学物質または混合物の特定試験データはない。飲み込むと胃腸刺激、吐き気、嘔吐、及び下痢を引き起こすおそれがある。

吸入

この化学物質または混合物の特定試験データはない。気道刺激を引き起こすおそれ。吸入すると有害のおそれ。眠気又はめまいのおそれ。

皮膚接触

この化学物質または混合物の特定試験データはない。軽度の皮膚刺激。長期にわたり接触すると発赤及び刺激を引き起こすおそれがある。

眼接触

この化学物質または混合物の特定試験データはない。眼刺激。(成分に基づく)。発赤、搔痒感、及び痛みを引き起こすおそれがある。

皮膚腐食性 / 刺激性

皮膚刺激のおそれ。

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

成分に対して利用可能なデータに基づく分類。眼を刺激する。

呼吸器感受性又は皮膚感受性

情報なし。

生殖細胞変異原性

情報なし。

発がん性

長期にわたる研究により、エタノールはアルコール飲料として長期間消費された場合にのみ発がん性が認められている。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

下表は各機関が何らかの成分を発がん性として記載しているかを示す。

化学名	日本	IARC
エタノール 64-17-5	1A	Group 1
過酸化水素 7722-84-1	2	Group 3

凡例

IARC (国際癌研究機関)

グループ1 - ヒトに対して発がん性がある
グループ3 - ヒトの発がん性に関して分類できない物質

生殖毒性 情報なし。

標的臓器影響 眼。皮膚。呼吸器系。

特定標的臓器毒性 - 単回ばく露 呼吸器への刺激のおそれ。眠気又はめまいのおそれ。

特定標的臓器毒性 - 反復ばく露 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。
中枢神経系。

誤えん有害性 情報なし。

12: 環境影響情報

生態毒性 この製品の環境に与える影響は完全には調査されていない。

化学名	藻類 / 水生植物	魚類	甲殻類
エタノール	-	LC50: 12.0 - 16.0mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss) LC50: >100mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: 13400 - 15100mg/L (96h, Pimephales promelas)	LC50: 9268 - 14221mg/L (48h, Daphnia magna) EC50: =2mg/L (48h, Daphnia magna)
グリセリン	-	LC50: 51 - 57mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss)	-
過酸化水素	-	LC50: 18 - 56mg/L (96h, Lepomis macrochirus) LC50: =16.4mg/L (96h, Pimephales promelas) LC50: 10.0 - 32.0mg/L (96h, Oncorhynchus mykiss)	EC50: 18 - 32mg/L (48h, Daphnia magna)

残留性・分解性 情報なし。

生体蓄積性

成分情報

化学名	分配係数
エタノール 64-17-5	-0.32
グリセリン 56-81-5	-1.76

土壤中の移動性 情報なし。

他の有害影響 情報なし。

13: 廃棄上の注意

残余廃棄物	環境中に放出してはならない。現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。
汚染容器及び包装	空の容器は火災および爆発危険有害性を有する。容器を切断、穴開けまたは溶接しないこと。

14: 輸送上の注意

日本

国連番号	UN1170
品名 (国連輸送名)	エタノール溶液
説明	UN1170, エタノール溶液, 3, II
国連分類 (輸送における危険有害性3 クラス)	
容器等級	II
特別条項	144, 223

IMDG

国連番号	UN1170
品名 (国連輸送名)	エタノール溶液
説明	UN1170, エタノール溶液, 3, II, (17.5°C C.C.)
国連分類 (輸送における危険有害性3 クラス)	
容器等級	II
EmS番号	F-E, S-D
特別条項	144

IATA

国連番号	UN1170
品名 (国連輸送名)	エタノール溶液
説明	UN1170, エタノール溶液, 3, II
国連分類 (輸送における危険有害性3 クラス)	
容器等級	II
特別条項	A180, A3, A58

15: 適用法令

該当製品に特有な安全、健康及び環境に関する規制

国内規制

日本

化学物質排出把握管理促進法(PRTR)

該当しない。

労働安全衛生法

危険物

労働安全衛生法施行令別表第1 (第6条、第9条の3関係)

引火性物質

表示物質

安衛法表示対象物質: 労働安全衛生法施行令別表第9 (労働安全衛生法第57条の2および労働安全衛生法規則第33条関係)

通知対象物質

安衛法通知対象物質: 労働安全衛生法施行令別表第9 (労働安全衛生法第57条の2および労働安全衛生規則第34条の2の4関係)

毒物及び劇物取締法

該当しない

消防法:

引火性液体、第4類、アルコール類、危険等級 II、400リットル

化学物質の審査及び製造棟の規制に関する法律 (化審法)

下表は、記載されている、該当すると考えられるカットオフ値を超える成分を示す

化学名	化審法
過酸化水素 7722-84-1	優先評価化学物質

労働基準法

化学物質により引き起こされる業務上の疾病 - 労働基準法第75条、労働基準法施行規則第35条及び化学物質の成分及び化合物と労働者の健康障害を指定する通告別表第1の2、項目4の1

水質汚濁防止法

人の健康もしくは生活環境に係る被害を生ずるおそれがある物質として水質汚濁防止法第2条及び水質汚濁防止法施行令第3条の3で定める指定物質

大気汚染防止法

大気汚染防止法第3条に排出基準が規定されている大気汚染物質
大気汚染防止法第2条、第4段落で定める揮発性有機化合物

国際規制

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約 該当しない

ロッテルダム条約 該当しない

国際インベントリー

TSCA

DSL / NDSL

EINECS / ELINCS

化審法インベントリ

IECSC

KECL

PICCS

AICS

インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること。
インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること。

凡例:

TSCA - 米国有害物質規制法セクション8(b)、インベントリー

DSL/NDSL - カナダ国内物質リスト / 非国内物質リスト

EINECS/ELINCS - 欧州既存商業化学物質インベントリー / 欧州新規届出商業用化学物質リスト

ENCS - 化審法既存物質
IECSC - 中国現有化学物質名録
KECL - 韓国既存化学物質目録
PICCS - フィリピン化学品・化学物質インベントリー
AICS - オーストラリア化学物質インベントリー

16: その他の情報

発行日 06-4-2020

改訂日 06-4-2020

改訂記録 初期放出。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例

凡例 項目8: (ばく露防止及び保護措置)

TWA	TWA (時間加重平均)	天井値	最大限界値
*	皮膚兆候	+	感作性物質

本SDSの編集に使用した主要参考文献およびデータ源

米国環境保護庁ChemViewデータベース
欧州食品安全機関 (EFSA)
EPA (環境保護庁)
急性ばく露ガイドラインレベル (AEGL)
米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法
米国環境保護庁高生産量化学物質
フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)
危険有害性物質データベース
国際統一化学情報データベース (IUCLID)
日本GHS分類
国家工業化学品届出審査機構 (NICNAS)
NIOSH (米国労働安全衛生研究所)
米国医学図書館ChemID Plus (NLM CIP)
米国国家毒性プログラム (NTP)
ニュージーランド化学物質分類・情報データベース (CCID)
経済協力開発機構、環境・健康・安全に関する文書
経済協力開発機構、高生産量化学物質点検プログラム
経済協力開発機構、スクリーニング情報データセット
RTECS (化学物質毒性データ総覧)
世界保健機構

免責事項

このSDSは、JIS Z 7252:2014およびJIS Z 7253:2012 (日本) の要件に準拠している。この安全データシートに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、または何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシートのおわり